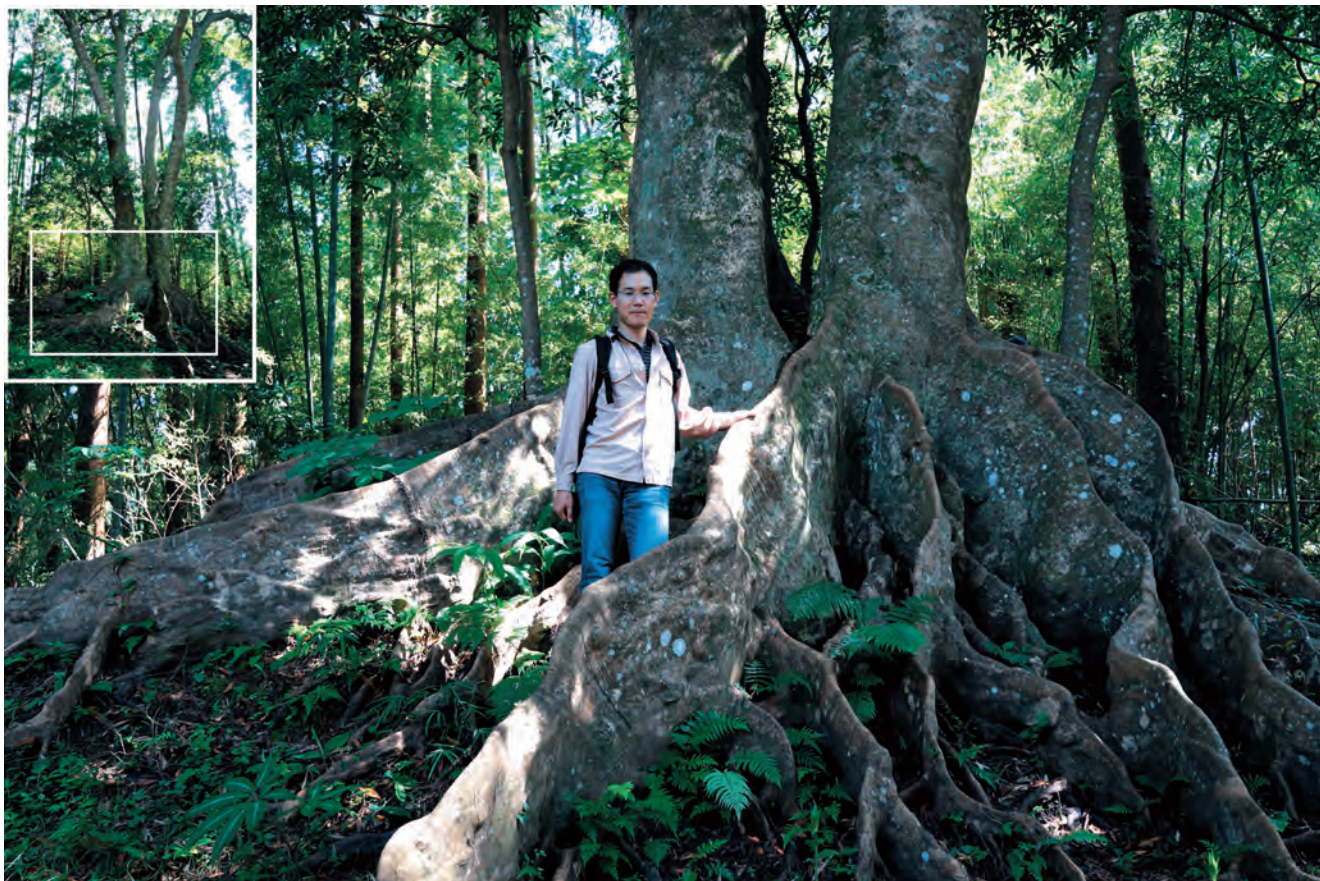


自然科学のとびら

Newsletter of the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History

Vol. 20, No. 2 神奈川県立生命の星・地球博物館 Jun., 2014



日本にもあるよ!

ばんこん
大きな板根

ホルトノキ

Elaeocarpus sylvestris var. *ellipticus*
(Thunb.) H.Hara

2013年7月7日千葉県いすみ市
中山博子 撮影
(左上は根本から幹の遠景。枠
内が板根写真のあたり)

おおにし わたる
大西 亘 (学芸員)

上の写真は、うっそうと植物が生い茂った熱帯のジャングルでの光景でしょうか? いえいえ、お隣千葉県の里山での一コマです。写真で私が触れている部分は板根といい、樹木の根元が地面に垂直な板状に広がった構造のことです。根が地中へ広がって幹を支える代わりに、地上部に広がって幹を支えるのが板根の主要な役割と考えられています。痩せて貧弱な土壌や根を深く伸ばせないなどの生育場所の条件によって板根を発達させやすい種類の樹木が、発達させることがあるようです。

当館1階の生命展示室で、大きく目を引く展示物の一つが、はるばるマレーシアからやってきた大木の「板根」です。

板根といえば、このような熱帯多雨林の大木に発達するものが特に大きく、注目されますが、実は日本に生える樹木でも見られることがあります。沖縄県で見られるサキシマスオウノキ、オキナワウラジロガンなどの他、本州にも生えるホルトノキ(写真)やスダジイなどでも、実際に見たことがあります。探してみると、みなさんの身近で見つけられるかもしれません。